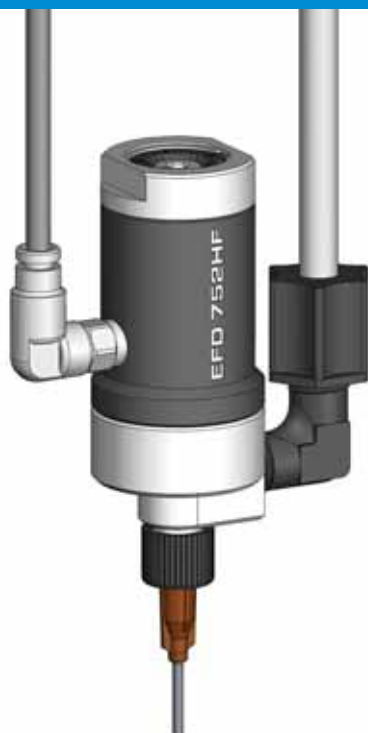


# ハイフローダイヤフラムバルブ752HF

## メンテナンス・パーツガイド



### 重要！

このガイドは大切に保管してください。

このガイドは、メンテナンス管理者にお渡しください。

ノードソンEFDの取扱説明書のpdfファイルは、[www.nordsonefd.jp](http://www.nordsonefd.jp)からダウンロードできます。



# バルブの分解組立手順

注意：損傷を防ぐために、バルブは液剤吐出口側から分解してください

## 接液ボディー

- 2本の固定ネジを外します。
- 接液ボディーを再度取り付けるには、接液ボディー、ダイヤフラム、シリンダーボディーの穴の位置を合わせ、固定ネジを挿入します。下表のトルク規格値に沿って締めつけてください。

## ダイヤフラム

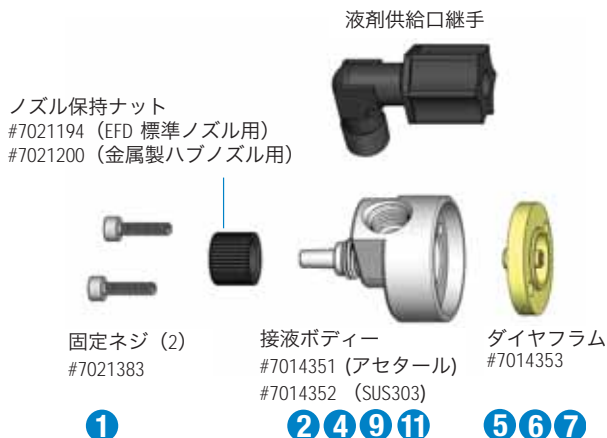
- ストローク調整ノブを、完全に閉まった位置から反時計回りに2回転させて、引き出します。
- 接液ボディーを取り外します。
- ダイヤフラムを反時計回りに回して、ピストンロッドから外します。

## バルブ機種別交換部品

モデル	アセタール 接液ボディー	ステンレス 接液ボディー	液剤供給口継手
752HF-A	•		7021499 (1/4" OD Tube)
752HF-SS		•	7021499 (1/4" OD Tube)

### 接液ボディー

アセタール	1.58 Nm	(14 inch pounds)
SUS303	1.58 Nm	(14 inch pounds)



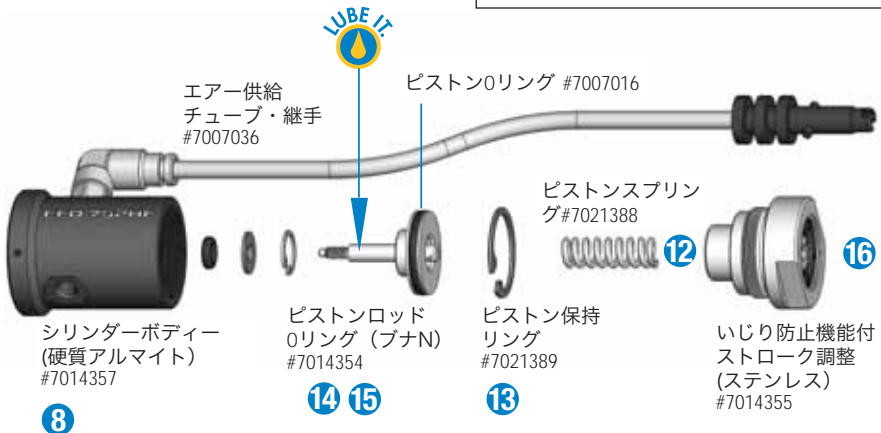
6. 新しいダイヤフラムを取り付け、中程度の圧力で締め付けます。
7. マイナスドライバーをストローク調整ノブの穴に挿入して、ダイヤフラムの穴を、エアシリンダーボディの適当な固定穴に合わせ、ピストンロッドの細い穴に合わせます。
8. ロッド、ピストン、ダイヤフラムアセンブリを、それぞれの穴の位置が揃うまで時計方向に回します。
9. 接液ボディーを装着します。
10. ストローク調整ノブを、閉まるまで時計方向に回し、その後適切なストロークが得られるように開いてください。

## ピストンOリング

11. 接液ボディーとダイヤフラムを外します。
12. ストローク調整ノブとばねを、反時計回りに回して外します。
13. ピストン固定リングと反トルクワッシャーを外します。
14. ピストンを外します。
15. Oリング、ピストンシャフト、エアシリンダーの内面を、ナイ潤滑油#865で潤滑します。
16. 分解したときと逆の順序で組み立てます。

### 使用する工具：

2.5mmと3mm六角レンチ  
 1/8" マイナスドライバー  
 6" モンキーレンチ  
 6" ラジオペンチ  
 スナップリングプライヤー



# トラブルシューティング

## 液剤が吐出されない

- バルブ駆動エアーの圧力が低すぎる場合、バルブは開きません。エアー圧を最低でも70psi(0.48MPa)まで上げてください。
- タンクのエアー圧が充分でない。エアー圧を上げてください。
- ノズルが詰まっている。ノズルを交換してください。
- ストローク調整が閉じている。ストローク調整を開いてください。
- 接液ボディー内で液剤が固化している。接液ボディーを洗浄してください。

## バルブが閉じたあと、液漏れが見られ、徐々に止まる

- この現象は、接液ボディーの吐出部にエアーが溜まっている、あるいは液剤にエアーが混入している場合に見られます。エアーはバルブが閉じたあとに膨張し、エアーが大気圧に達するまで液剤を押し出します。エアーが見られなくなるまで液剤を定量で吐出し、パージを行なってください。ゲージの小さいノズルを使用している場合、ノズルアダプターからエアーが抜けるのに十分な液剤が吐出しない場合があります。そのときは、ノズルと外してください。
- 液剤にエアーが混入しているときは、吐出を行なう前に脱泡してください。

## バルブが閉じたあと、液漏れが一定の間隔でみられる

- 一定間隔で液漏れする場合は、タンク圧が高すぎる可能性があります。タンク圧が70 psi (0.48Mpa)を超えていないかご確認ください。
- ストローク調整ノブを2回転以上開いた場合、加圧された液剤がダイヤフラムシール部を押し開く恐れがあります。ストローク調整ノブを2回転以上開かないようにしてください。
- 一定間隔で液漏れする場合は、液剤の粒子が堆積しているか磨耗しているために、ダイヤフラムが完全に閉じないことが考えられます。メンテナンス方法の説明に従い、シーリングヘッドを交換してください。

## 液剤が接液ボディーとダイヤフラムの間から漏れる

- 接液ボディーとダイヤフラムの間からの液漏れは、接液ボディーの環状シーリンググリップが破損している、固定ネジの取付トルクが大きすぎて接液ボディーが変形しているなどの原因が考えられます。接液ボディーを交換してください。

## 駆動エアー入力口下の通気孔から液剤が出る。

- 駆動エアー入力口のすぐ下に、放熱用の通気孔がありますが、ここから液剤が出るのは、ダイヤフラムが破損していることが考えられます。

## バルブ開閉のレスポンスが遅い

- バルブのレスポンスは駆動エアーチューブの長さや径に関係しています。ノードソンEFDのバルブには、内径3/32"の5'のチューブが同梱されていますが、これより長い、あるいは太いチューブをご使用になると、レスポンスタイムに影響がでます。違う長さ、内径のチューブを使用していないか確認してください。

## 吐出が不安定

- バルブ駆動や液剤タンクへの供給エアー圧が一定ではない、あるいはバルブ駆動エアー圧が70 psi (0.48MPa)未満の場合、液剤吐出が不安定になる場合があります。エアー圧が安定しており、駆動エアー圧が70 psi (0.48MPa)に達しているかご確認ください。
- バルブの開放時間は一定である必要があります。バルブコントローラーが正しい出力を行なっているかご確認ください。

ノードソン株式会社 EFDビジネスグループ  
〒140-0012

東京都品川区勝島1-5-21 東神ビル8F

Tel : 03-5762-2760

Fax : 03-5762-2737

japan@nordsonefd.com

www.nordsonefd.jp

WAVEデザインは、Nordson Corporationの登録商標です。

©2010 Nordson Corporation 752HF-MAINT-09 7014141 v051310

